

小学校国語科「書くこと」の資質・能力を育てる 教科等横断的な学習に関する研究(2)[†]

成田 雅樹*

秋田大学大学院教育学研究科*

本論文は、「小学校国語科『書くこと』の資質・能力を育てる教科等横断的な学習に関する研究」として採択された、科学研究費補助金助成研究（基盤研究（C）22K02538）の2年目（令和5年度）の研究結果をまとめたものであり、国語科の「書くこと」と他教科等が交わる箇所を検討して作成した第1学年～第3学年のカリキュラム・デザイン表とその考察について述べている。

主な考察結果は以下の4点である。

- ①第1学年と第2学年では、教科等横断的な学習をすべての他教科等で設定できた。第1学年については、すべての教科の学習活動に含まれる文字・語句・文レベルの言語活動で構成される「言語単位」が多かったからだと考えられる。第2学年については、言語活動の対象となる題材を特定していない単元があったからだと考えられる。題材の自由度が大きいと横断単元が設定しやすくなることは、第3学年にも共通することである。
- ②教科等横断的な学習で扱われる文種については、第1学年～第3学年に共通してNarrative-type（Nタイプ）とInformative-type（Iタイプ）が多い。これは、学習指導要領の言語活動例を踏まえているからである。Nタイプは生活科、図工、道徳、特別活動等の行事的な内容や出来事・経験についての思いを述べる文章の場合に多い。Iタイプは生活科や算数等の観察や製作について述べる場合に多い。つまりどのタイプにしても、題材の重なりが大きい場合や、題材の自由度が大きい場合に横断単元を設定しやすくなるのが分かる。
- ③先に述べたように、題材の重なりが大きいことによって教科等横断的な学習の機会を構成する教科等が多い場合には、大きく2通りの教科間関係が見られる。1つはすべての教科で1つの横断単元を構成する場合である。また別の1つは国語科と横断する教科等がいくつかに分かれる場合である。この違いは題材が共通化できる範囲によって生じる。実際には、題材が多く教科等で同じになることはまれであるため、国語科が題材を特定していない場合に、他教科等の題材を当てはめて共通化が図られることが多い。
- ④複数教科等で1つの横断単元にする場合は、各教科等の実施時間にゆとりが生じるという利点がある。一方、題材が共通するいくつかの横断単元にする場合は、国語科の言語活動が反復されて、より確かに習得されるという利点がある。したがって、あえて1つにせず、分割して横断的な学習をくり返すという選択も考慮することができる。

キーワード：小学校国語科，書くこと（作文），書くことの学習方略，書くことの資質・能力，言葉による見方・考え方，カリキュラム・マネジメント，教科等横断的な学習

1. はじめに

本論文は、「小学校国語科『書くこと』の資質・能力を育てる教科等横断的な学習に関する研究」として採択された、科学研究費補助金助成研究（基盤研究（C）22K02538）の2年目（令和5年度）の研究結果をまとめたものである。

2023年12月7日受理

[†]Masaki NARITA*, A study on cross-curricular learning to nurture the qualities and abilities for writing in elementary school Japanese language classes(2)

*Graduate School of Education, Akita University

具体的には、「学習の基盤となる資質・能力」としての言語能力を育成するための教科等横断的な学習について、国語科の「書くこと」と他教科等が交わる箇所を検討して作成したカリキュラム・デザイン表とその考察について述べている。

国語科をふくむ各教科等の年間指導計画は、秋田大学教育文化学部附属小学校のものを使用した。附属小学校の国語科の年間指導計画では、いわゆる言語事項の単元（言語単元）の多くが「書くこと」の資質・能力（附属小学校独自の資質・能力表の「B-1」等）をふくむ単元となっている。「B」は学習指導要領のB領域「書くこと」を示し、数字は附属小学校の資質・能力表の番号を示す。これは、使用教科書の光村図書 の年間指導計画に従っているためと考えられる。

そのため、今回作成したカリキュラム・デザイン表では、「書くこと」の基礎技能である言語事項を扱ういわゆる「言語単元」が1・2年生に多くなっている。特に1年生では、教科書上巻が2年生以上の単元系統とは異なる「入門期」の編成になっているため、「書くこと」の資質・能力をふくむ単元としてピックアップした単元が31カ所に及んでいる。言語単元とするか作文単元とするかは難しいところであるが、扱う言語単元が文章レベルであり、その文章に題材の設定があるものを作文単元としている。

こうした事情から、本来であれば今年度の研究として全学年のカリキュラム・デザイン表を示すべきであるが、与えられたページ数に限りがあるため本論文においては1～3年の下学年について述べ、4～6年の上学年については来年度の研究のまとめの論文にふくめることとする。

2. 表の説明

カリキュラム・デザイン表の左列の「資質・能力」は、当該の国語科「書くこと」単元で育成するものである。その右隣は、国語科や各教科等の「単元」の名称、「言語活動」である。同列下段の「見方・考え方」は、当該の国語科や横断的に扱う他教科等の「言語活動」で発動するものである。この「見方・考え方」は、前回の科研費研究（「書くことに関する『言葉による見方・考え方』とその指導法としての『文種換え』の研究」課題番号19K02802）で、東京書籍教科書の単元を基にして筆者が作成したものであり、「1上p10」等の表示は、その単元の学年・巻・ページを示している。「言葉による見方・考え方」そのものを記載すべきところであるが、表全体が大きくなってしまったため、該当の論文（「書くことに関する『言葉による見方・考え方』とその指導法としての『文種換え』の研究（1）」『秋

田大学教育文化学部教育実践研究紀要』第42号2020年）の一覧表（「更新・新規獲得する見方・考え方（当該単元の言葉の力）」）で確認するための記号のみにとどめた。

また、教科等横断的に扱えるとして単元名や言語活動を記載した他教科等の枠内に示した「TAS」は、横断の接点を示している。「T」はTopicの略で話題・題材が国語科と当該教科単元とで重ねられることを示している。「A」はActivityの略で言語活動が重ねられることを示している。「S」はSkillの略で、国語科の単元に示した「資質・能力」のうち、横断的な学習で行われる言語活動に応じていくつか、あるいはすべての言語能力が習得・発動されると考えている。国語科の「見方・考え方」は言語活動と連動して他教科等においても発動するものとして考えているからである。

ところで、管見によると多くの公立学校のカリキュラム・デザイン表は、縦と横に各教科等の単元と実施月が配置された一覧表になっていることが多い。この表の上では、斜めの線で教科等横断的な扱いをする単元どうしが結ばれていることが多い。それぞれの単元の実施月が異なるために、位置がずれているからである。

これに対して筆者は国語科「書くこと」単元とほぼ同時期に計画されている他教科等の単元のみを抽出した。各教科等の単元の名称の前にある数字は、その単元の実施月を示している。教科等横断的に扱う単元の実施月は同じか近いことが確認できる。つまり、同期できる単元のみを抽出している。

昨年度の本研究の論文（「小学校国語科『書くこと』の資質・能力を育てる教科等横断的な学習に関する研究（1）」『秋田大学教育実践研究紀要』第44号2022年）にも述べたが、実施時期がずれていると教科等横断的に扱う効果が損なわれると考えるからである。国語科の主な教科内容は言語活動を遂行する言語能力である。一方他教科等で行われる言語活動は当該教科の教科内容を習得するための手段である。したがって、他教科等の実施時期が先行する「他教科等の単元→国語科「書くこと」単元」という形の教科等横断的な扱いは、必要とされる言語能力が未習得であるため、不可能である。つまり線で結ぶことは形式的なものであり、実際は言語能力を横断的に扱うことができないことになる。結局は国語科と他教科等の双方あるいは一方の実施時期を動かして、同時期にするか、「国語科「書くこと」単元→他教科等の単元」の順にせざるを得ない。しかし、他教科等の資質・能力などに習得の順序性がある場合など、単元の入替えが不可能な場合も

ある。また「国語科「書くこと」単元→他教科等の単元」の場合には、空いた期間に十分に定着・習熟が図られ、教科等横断的に扱う必要がないことも考えられる。

以上の理由から、より実現性・実効性のある単元として、同期する単元のみを示してある。

3. 各学年の考察

(1) 1 学年

第1学年の国語科「書くこと」(言語単元をふくむ)の単元数は31である。また、国語科以外の教科等の数は8である。

8教科等のすべてで横断的に扱う箇所が抽出できた。最多は生活科の8単元、最少は音楽の1単元である。

国語科の単元を見ると、1番目の単元(自己紹介をする)と31番目の単元(1年間の思い出をふり返る)が、それぞれ全体の半数である4つの他教科等と横断できている。両単元に見られる行事的な言語活動は、多くの教科等に共通する傾向があるからである。国語科の単元で横断箇所が抽出できたのは18単元(58, 06%)であり、1カ所も抽出できなかったのは13単元(41, 93%)であった。31単元×8教科等=248枠のうち33カ所(13, 30%)に教科等横断的な学習の機会が設定できている。

横断的な箇所で書かれる文章の文種をみると、20単元では文種と言えないものであった。これは文字や語、一文レベルの言語単位を扱う、いわゆる「言語単元」だからである。

第12, 13, 17, 24, 26, 31単元の計6単元が感想文や生活文等のNarrative-type(Nタイプ)である。第10, 18, 21, 23, 29単元の計5単元が観察記録文や紹介文などのInformative-type(Iタイプ)である。意見文等のPersuasive-type(Pタイプ)は0であった。

概して、Nタイプは生活科(行事的活動)や図工、道徳、特別活動における出来事や経験についての思いを書く横断単元に見られ、Iタイプは生活科や算数における記録活動等と横断する単元に見られた。

ところで、31番目の年度末単元は、国語科をふくむ5つの教科等を1つの単元として扱うことができる。これはすべての教科等で題材「T(ふり返った1年間の思い出)」が共通しているからである。またそれだけでなく、言語活動「A」と言語能力「S」が生活科と特別活動の冊子作りやカード作成で保証されているからである。図工の「絵にする活動」や道徳の「発表する活動」では扱えなくても、国語科「書くこと」の教科内容である資質・能力(言語能力)が扱える言語活動(冊子作りやカード作成)が生活科や特別活動で

行えるからである。

言語活動「A」が横断していると、発動する「言葉による見方・考え方」も、その活動を遂行するために発動・習得する資質・能力(言語能力「S」)も横断することになる。教科等横断的に扱う単元を設定するには、題材「T」も大切ではあるが、より重要なのは資質・能力「S」(いわゆる「技能上の関連」)であり、この成立の要になるのが言語活動であることを確認しておきたい。

(2) 第2 学年

第2学年の国語科の単元数は14である。また、国語科以外の教科等の数は8である。

第2学年でも8教科等のすべてで横断的に扱う箇所が抽出できた。最多もやはり生活科の7単元であり、最少は音楽と外国語活動の1単元である。

国語科の単元を見ると、3番目の単元(観察して書く)が5つの他教科等と横断できていて、最多である。この単元の「観察して書く」という言語活動の観察対象は、国語科では特定していない。そのため生活科で扱う野菜を観察対象にしたり、算数で数を調べる対象にしたり、図工で描く対象にしたり、外国語活動や道徳の発表の対象にしたりすることで、横断の接点にすることができるからである。

国語科で横断箇所が抽出できたのは12単元(85,71%)であり、1カ所も抽出できなかったのは2単元(14, 28%)である。国語科14単元×8教科等=112枠のうち、24カ所(21,42%)に教科等横断的な学習の機会が設定できている。

国語科14単元で書かれる文章の文種は、第1, 2, 4, 7, 8, 9, 10, 12, 13, 14単元の計10単元が詩や手紙、日記、感想文や生活文等のNarrative-type(Nタイプ)である。第3, 6, 11単元の3単元が観察記録文や報知の文、手順の説明文等のInformative-type(Iタイプ)である。意見文等のPersuasive-type(Pタイプ)は0であり、言語単元(句読点に気をつけて短文を書く)が1つである。

概して、Nタイプは生活科(行事的活動)や特別活動の経験を書く単元、図工、音楽、道徳の思いを書く単元の横断単元に見られ、Iタイプは生活科(動植物の観察)や図工(製作)との横断単元に見られる。

横断する教科等が最多であった第3単元は、国語科をふくむ6つの教科等で1つの教科等横断的な単元ができる。これは冒頭でも述べたとおり国語科が特に題材を特定していないことと、横断教科等のすべてで観察記録の言語活動の対象を動植物(特に野菜)にそろえることが可能だからである。

一方、第5単元は横断できる他教科等がない。これは、国語科で短文を作る際に教科書に示した絵の中から読み取れる漢字を使うように指定しているからである。

以上から、国語科が題材を特定していると他教科等と横断させにくくなるのが分かる。国語科以外の教科等で、算数や図工や外国語活動等は題材を国語科に合わせやすいが、教科内容が特定の題材と結びつくことが多い生活科や社会科や理科、道徳などは題材を入れ替えることができない場合が多い。

国語科「書くこと」の資質・能力を育てる教科等横断的な学習でなければならないので、言語活動とこれに伴う言語能力（資質・能力）が接点になることは必須である。そうすると、他教科等の題材を国語科に合わせるか、その逆かなど、題材を重ねる工夫が求められることになる。

なお、カリキュラム・デザイン表では、国語科の単元と他教科等の単元の接点（重ねて実施できる内容）をTとAとSの3つに分類しているが、他教科等で何らかの言語活動が学習活動として行われれば、AとSは国語科と重なっていることになる。しかし、これは意図的・計画的に教科等横断的に扱っているからではなく、偶然である。しかも発動しているAやSは下学年で習得済みの場合もある。本研究では、あくまで当該学年の国語科単元（当該学年で習得する資質能力）を基準にして、その単元のT、A、Sと、どの程度の横断が可能かを検討している。そのため、題材が国語科と異なる場合は別個に実施することになる。

その他、第2単元は国語科と算数と生活科と図工が横断できる単元であるが、第3単元のようにすべての教科等を横断できるわけではない。それぞれの題材が異なるため、国語科の「日記の題材になりそうな出来事」に、算数の「登下校時のこと」、生活科の「なかよし集会のこと」、図工の「好きなこと」をそれぞれ当てはめる「国+算」「国+生」「国+図」の3通りの組み合わせになる。また題材以外にも図工の言語活動が「友だちに紹介する＝友だちと読み合う」で、算数、生活科と異なっている。そのため国語科で計画している資質・能力（第2学年B-40）が、算数と生活科にはないことになる。この点に留意し、算数や生活科にも「読み合い」の活動を加える、あるいは3通りの横断単元をすべて実施するといった配慮が求められる。

(3) 第3学年

第3学年の国語科の単元数は7である。また、国語科以外の教科等の数は10である。

第3学年では10教科等のうち、7つの教科等で横断

的に扱う箇所が抽出できた。一方1カ所も抽出できなかった教科等が3教科（音楽、図工、外国語）あった。最も多く抽出できたのは、社会科、理科、総合、特別活動の4教科等で、それぞれ4カ所であった。これは7単元中の4単元であるので、57.14%となり、すべてで抽出できている第1学年、第2学年に比べて少ない。

国語科の単元別に見ると、3番目の単元（調べて説明する）が10教科等のうち6教科等に横断的単元があり、最多である。この単元の「調べて説明する」という言語活動の対象（調べること）は、国語科では特定していない。そのため算数（重さを調べる身の回りの物）、社会科（消防署や警察署など）、理科（楽器の音の振動）、体育（食事、運動、生活リズムなど）、総合（商店街）、特別活動（冬に健康的に過ごす取り組み）のそれぞれの題材を当てはめて扱うことが可能になっている。

国語科で横断箇所が抽出できたのは7単元中の5単元（71.43%）で、1カ所も抽出できなかったのは4番目と6番目の2単元（28.57%）である。国語科7単元×10教科等＝70枠のうち、20カ所（28.57%）に教科等横断的な学習の機会が設定できている。

国語科7単元で書かれる文章の文種は、第1、3、5、6単元の計4単元が報告文や紹介文等のInformative-type（Iタイプ）である。第2、4、7単元の計3単元が手紙や物語創作、生活文等のNarrative-type（Nタイプ）である。意見文等のPersuasive-type（Pタイプ）は0であり、言語単元も0である。

概して、Iタイプの単元では国語科の題材が特定されておらず、他教科等の題材を当てはめられる。例外は第6単元で斎藤隆介作品を紹介するようにと限定されているところであり、この単元はそのために横断的に扱える教科等がない。

Nタイプも第2単元のように題材を指定しない手紙文であったり、第7単元のように一年間の出来事の振り返りであったりして、他教科等と重ねやすくなっている。例外は第4単元のように民話や昔話を創作するという題材指定があるため、横断的な単元がないものである。

ところで、4つの教科等と横断できる第5単元は、国語科では題材を指定していない（「報告書を書く」のみ）が、算数では「四則計算について」、社会科では「秋田市の交通等について」、理科では「磁石の性質について」、総合では「1年間の総合的な学習の時間について」といった題材の違いがある。したがって、国語科を含む5教科で一つの横断的な単元にすることはできない。4教科等の題材ごとに報告書をまとめる

という言語活動が行われることになる。国語科をふくむ5教科等で1つの単元にする場合は、各教科の実施時間を重ねることができるという利点がある一方で、国語科の言語活動の発動の機会は1回に限られる。国語科以外の4つの他教科等との個別の4単元にする場合は、国語科と横断する4教科等のそれぞれに実施時間を充てなければならない一方で、国語科の言語活動(報告文を書く)が4回～5回(国語科単独を含めると)反復されて、より確かに習得・定着することができる。

こうした違いも踏まえて教科等横断的な単元を設定する必要がある。

4. まとめ

各学年の考察の要点は「要旨」に述べることとして、ここでは全学年に共通して重要な事柄を第1学年の考察末尾から再掲する。

それは、教科等横断的な学習を設定するには言語活動が要になるということである。言語活動が重ねられると、その活動に際して働かせる「言葉による見方・考え方」も、その活動を遂行するために発動・習得される資質・能力も重なるからである。

また各学年の考察では、横断する教科等が多い単元に言及して、各教科等の実施時間が重ねられることで授業時間に余裕が生じることや、横断する教科等と国語科の組み合わせを分割して実施することで反復・習熟が見込めることを確認した。

これに関連してもう一つメリットを指摘しておきたい。それは、中学校ほどではなくても、教科担任制を実施している学校や学年においては、教科等横断的な単元の指導がティーム・ティーチングで行えるということである。これはカリキュラム・マネジメントの理念に合致することであり、負担軽減、効率化、多様性等、さまざまなメリットが考えられる。

次年度は、第4学年～第6学年のカリキュラム・デザイン表を作成して、上述の考察をさらに深め、研究の総括をする予定である。

Summary

This paper summarizes the results of the second year (FY2023) of research funded by a Grant-in-Aid for Scientific Research (KAKENHI (C) 22K02538), which was adopted as "Research on cross-curricular learning to develop the qualities and abilities of writing in Japanese as a second language in elementary school". It describes the curriculum design table for grades 1 to 3 and its discussion, which was created by examining the areas where

"writing" and other subjects in Japanese language studies intersect.

The four main findings of the study are as follows.

① In the first and second grades, cross-curricular learning could be set up in all other subjects. For the first grade, this is thought to be because there were many "language units" that consisted of language activities at the letter, phrase, and sentence levels that were included in the learning activities of all subjects. For the second grade, this is thought to be because some units did not specify the subject matter for the language activities. The same is true for the third grade, where the greater the flexibility of the subject matter, the easier it is to set up a cross-sectional unit.

② The most common types of sentences used in cross-curricular studies are Narrative-type (N-type) and Informative-type (I-type), which are common from the first to the third grades. This is because they are based on the examples of language activities in the Courses of Study, etc. N-type texts are often written to express thoughts about event contents, events, and experiences in life science, arts and crafts, moral education, special activities, etc. I-type texts are often written to describe observations and production in life science, math, etc. In other words, no matter which type of writing is used, it is often used for writing about subjects and materials. In other words, regardless of the type, it is easier to set up a cross sectional unit when there is a large overlap in subject matter or when there is a large degree of freedom in the subject matter.

③ As mentioned earlier, when there are many cross-curricular learning opportunities due to the large overlap of subject matter, there are two main types of inter-curricular relationships: one in which all subjects comprise a single cross-curricular unit, and another in which there are several separate cross-curricular units with Japanese as a cross-curricular subject. In the other case, there are several cross-curricular activities that are divided between Japanese and the other subjects. The difference depends on the extent to which the subject matter can be shared. In practice, it is rare for the subject matter to be the same in many subjects, so when the Japanese department

does not specify the subject matter, it is often commonized by applying the subject matter from other subjects.

- ④ The advantage of using a single cross-curricular unit for multiple subjects, etc., is that there is more time for each subject to be implemented. On the other hand, when several cross-curricular units share the same subject matter, there is the advantage that the language activities of Japanese language study are repeated and acquired with more certainty. Therefore, the option of dividing the course into several units and repeating the

cross-curricular activities in each unit can be considered.

Key Words : Elementary school Japanese, writing (composition), Learning strategies for writing, Writing qualities and abilities, Point of view and way of thinking toward the language, Curriculum Management, Cross-curricular learning

(Received December 7, 2023)

第1学年 「書くこと」の資質・能力の教科等横断的な学習機会

	資質・能力	教科等横断	国語									合計
			算数	生活	音楽	図工	体育	外国語	道徳	特活		
			4	8	1	4	3	3	6	4	33	
1	相手によくわかるように、自分の名前などを丁寧に書く。(B-1、6)	単元(言語)	4 どうぞよろしく		4 ともだちになろう こんにちはふぞくしょうがっこう				No.1 自己紹介	4 いつもあかるく	5 友だちの輪を広げよう	4
		言語活動	自己紹介の名刺を書く		学級・学年の友達や職員と自己紹介をし合う。				Hello. My name is~. Nice to meet you.等の会話の前後で、相手の名前をメモする。	挨拶の場面を考えて動作化する	自己紹介カードを発表し合う。	
		見方・考え方			TAS				TAS	TAS	TAS	
2	平仮名で母音を含む単語を書く。(B-1、5、6) 音節と文字の関係に気づく。(B-5、6)	単元(言語)	4 うたにあわせてあいうえお			4 うたでなかよし				5 お世話になっている人たち	2	
		言語活動	あいうえおを含む言葉を書く			うたのイメージにある動物名を書く				がっこうにいるいろいろな人たちに、校舎図に書き込む。		
		見方・考え方				TAS				TAS		
3	語句の音節と文字の関係に関心を持ち、言葉を集めようとする。(B-1、6)	単元(言語)	5 つづけよう① たのしいな、ことばあそび	4 なかよしあつまれ							1	
		言語活動	既習の平仮名で始まる2~4文字の言葉を書く	2つの集合の絵について、ものごとの位置を表す「前後、左右、上下」などの言葉を書く。								
		見方・考え方		TAS								
4	清音と濁音に気をつけながら平仮名を読んだり書いたりする。(B-1、5、6)	単元(言語)	5 かきとかぎ								0	
		言語活動	短歌などの清音と濁音を含む単語を書く									
		見方・考え方										
5	主語と述語の関係に気づき、語と語のつづき方を確かめながら「～が、～する。」という文型の文を書く。(B-2)	単元(言語)	5 ぶんをつくらう	5 なんばんめ							1	
		言語活動	日常生活について、主語+述語の文を書く。	「1番、2番」「上(下)から1番め、2番め」のように、順序を表す文を書く。								
		見方・考え方	1上 p 3 4	TAS								
6	促音の表記、助詞「は」の使い方を理解し、言葉や文を読んだり書いたりする。(B-1,2,5,6)	単元(言語)	5 ねことねっこ								0	
		言語活動	促音を含む単語や助詞「は」を含む文を書く。									
		見方・考え方	1上 p 4 8									
7	長音の表記、助詞「の」に気をつけながら、言葉や文を読んだり書いたりする。(B-1,2,5,6)	単元(言語)	6 おばさんとおばあさん								0	
		言語活動	長音を含む単語や助詞「の」を含む文を書く。									
		見方・考え方										
8	拗音の表記、助詞「へ」に気をつけながら、言葉や文を読んだり書いたりする。(B-1,2,5,6)	単元(言語)	6 おもちやおもちや								0	
		言語活動	拗音を含む単語や助詞「へ」を含む文を書く。									
		見方・考え方	1上 p 5 6									
9	平仮名を読んだり書いたり、五十音表から言葉を見つけて正しく書いたりする。(B-5,6) 音節と文字の関係や、アクセントによる意味の違いなどに気づく。(B-1,5,6)	単元(言語)	6 あいうえおであそぼう			5 クレヨンやパスとなかよし					1	
		言語活動	五十音表の文字に続く言葉を考えて書く。			五十音表を使って、クレヨンやパスの色の名前の文字を読む。						
		見方・考え方				AS						
10	書こうとする題材に必要な事柄を、対象を観察して集める。(B-21)	単元(作文) Informative	6 おおきくなつた	10 かずをせいりして	6 きれいにさいてね はなをそだてよう					6 生き物に優しい心で	3	
		言語活動	植物の観察記録を書く。	あさがおや野菜の数を整理して書く。	促音・長音・拗音・濁音の文字に注意して、アサガオの観察カードを書く。					自分が世話をしている動物や植物に手紙を書く。		
		見方・考え方	1下 p 3 8	T	TAS					T		

11	語と語をつなぐ助詞「は・を・へ」を正しく使って文を書く。(B-2,4,5)	単元(言語)	6 「は」「を」「へ」をつかおう	7 ともだちになろう なつとあそぼう			6 マットを使って変身遊び		7 夏休みの計画を立てよう	3
		言語活動	自分や友だちがしていることを、「～は、～を、～。」「～は、～へ、～。」という文にして書く。	遊びを通して、樹木や草花、虫などの身近な自然について、春と比較して気付いたことを書く。			単元の最後に時間に、逆立ちやゆりかご、前転がりを上手にする上で気づいたことをまとめる。		夏休みに頑張りたいことや予定を書き込む。	
		見方・考え方	1上 p 4 8 / 5 6	TAS			TAS		TAS	
12	語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書く。(B-2)	単元(作文)	7 すきなもの、なあに			5 すきなもの いっぱい	No3 好きな色 No4 好きな果物			2
		言語活動	好きなものとその理由を2文で書く。			八つ切り画用紙のマスに、好きなものの絵をたくさん描いて説明する。	メモを元に、好きなものを英語で説明する。			
		見方・考え方				TAS	TAS			
13	日記に書くことを決め、必要な事柄を思い出すなどして集め、語と語、文と文のつながりに注意して書く。(B-4,5,7)	単元(作文)	7 こんなことがあったよ	11 たしざん 11 ひきざん					7 命の温かさ	2
		言語活動	経験について、したことを、見たこと、聞いたこと、思ったことを想起して、5W1Hがわかる絵日記を書く。	秋みつけや秋祭りの場面絵を見て、加法や除法の問題を作る。					身近な生き物とのふれあいの経験を話す。	
		見方・考え方	1上 p 8 0	TAS					TAS	
14	言葉遊びに取り組み、身近なことを表す語句を見つけたり、自分でも言葉遊びを作成したりしようとする。(B-1,5)	単元(言語)	9 つづけよう② たのしいな、ことばあそび							0
		言語活動	言葉を書いて言葉遊びの問題を作る。							
		見方・考え方	1上 p 1 2 2							
15	片仮名の語を正しく読んだり書いたり、片仮名で書く語を使った文を書いたりする。(B-1,5,6)	単元(言語)	9 かたかなをみつけよう	9 いきものなかよし			10 動物さんに変身しよう			2
		言語活動	楽器の名前など、音楽に使うカタカナの言葉で文を書く。	カタカナに気をつけて、学校にいる生き物について気づいたことをメモする。			何の動物が何をしている動きか、考えたり、説明したり、工夫をふり返ったりする。			
		見方・考え方		TAS			TAS			
16	第1学年に配当されている漢数字と助数詞を読んだり書いたりする。(B-1)	単元(言語)	9 かんじでかこう かずとかんじ				No5 1~10			1
		言語活動	皿、りんご、鉛筆等の数え歌を作ったり書く。				1~10の英語の数え歌を歌う。			
		見方・考え方					TAS			
17	書いたものを読み合ったりよむところを見つけて感想を伝え合う。(B-40)かぎ(「」)の使い方を理解する。(B-3)	単元(作文)	10 こえにだしてよもう「くじらぐも」						10 親切な心で	1
		言語活動	「くじらぐも」に乗って空を旅する子どもになって、会話を想像して発表したり吹き出しに書いたりする。					親切にしたことやされたことを伝え合い、感想を伝え合う。		
		見方・考え方	1下 p 9 2					TAS		
18	書こうとする題材に必要な事柄をよく観察して書く。(B-7)書いた文を読み返す習慣をつけ、間違いを見つめる。(B-35)語と語の続き方に注意し、句読点を使ってつながりのある文を書く。(B-2,4,7)	単元(作文)	10 よく見てかこう「しらせたいな見せたいな」	9 いきものなかよし						1
		言語活動	簡単な絵に名前や色、形、様子などを書き込んだ「しらせたいなカード」をもとに、考えた順序に沿って文章を書く。句読点や文字が正しく書けているか読み直して、必要に応じて直す。	学校にいる生き物を世話する活動をふり返り、できるようになったことや分かったこと、もっとやってみようことなどを書く。						
		見方・考え方	1下 p 3 8	TAS						
19	書いた文章を読み返したり、間違いを正しく直したりしている。(B-1,3,6)	単元(言語)	10 まちがいをなおそう							0
		言語活動	これまでに書いた文章やノートを読み返して間違いを直し、友達と交換して確認し合う。							
		見方・考え方								
20	漢字の成り立ちに興味をもち、学習したことをいかして漢字を使った短い文を書く。(B-1,6)	単元(言語)	10 かん字のはなし							0
		言語活動	習った漢字を使って短文クイズを作る。							
		見方・考え方								
21	事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、句読点を使ってつながりのある文を書く。(B-8,16)片仮名で、長音、拗音、促音を表記する。(B-1,6)	単元(作文)	11 せつめいする文しようをかこう「じどう車くらべ」							0
		言語活動	紹介したい自動車について、仕事を作りを書いたカードを作り、友達のカードと合わせて図鑑の構成を考える。							
		見方・考え方								

第2学年 「書くこと」の資質・能力の教科等横断的な学習機会

	資質・能力	教科等横断	国語	算数	生活	音楽	図工	体育	外国語	道徳	特活	合計
				3	7	1	5	2	1	3	2	24
1	春にかかわる言葉を探し、経験と結び付けて文章に表す。(B-21)	単元(作文) Narrative	4 きせつのことば1(春)		4 春をさがそう							1
		言語活動	春を感じたときの経験を、文章に書く。		学校や学校の周りの春を探し、見つけた春の様子を文章に表す。							
		見方・考え方	2上p44		TAS							
2	友達に知らせるために、身近な出来事から書くことを決め、出来事の様子や自分の気持ちを書く。(B-7,20) 書いたものを読み合い、感想を伝え合う。(B-40)	単元(作文) Narrative	4 日記を書こう	4 時ごとと時間	4 1年生をむかえよう	4 すきなことなみに						3
		言語活動	日記の題材になりそうな出来事をノートに書き出し、題材を選び、日記を書く。友達と読み合って、よいところを伝え合う。・どんなことを日記に書くときよかつたか確かめる。	登校時刻、下校時刻、休み時間の始まる時刻、終わる時刻などを読み取り、学校にいる時間などを求めたりして、日記に書く。	なかよし集会を振り返り、見つけた課題について、次の交流に備えて書き留めておく。	遊んだこと、がんばったこと、友達や家族としたことなど、好きなことをしている自分を描く。描いた場面について友だちに紹介する文章を書く。						
		見方・考え方	2上p44	TAS	TAS		TAS					
3	丁寧に観察し、気づいたことや分かったことを集める。(B-7) 知らせたいことが相手に伝わるように、書き表し方を工夫して書く。(B-9,16,20) 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合う。(B-40)	単元(作文) Informative	5 ていねいにかんさつしてまろくしよう	4 表とグラフ	5 そだてようぶれおもう			8-9 やさいいっぱいランドであそぼう	No.2 野菜の好き嫌いとベジタポバスケゲーム	7 自然に優しく		5
		言語活動	観察してメモをとり、メモを見ながら友達と話す。メモをもとに観察記録文を書く。学習したコツを使って書く。観察記録文を友達と読み合い、よく観察できている、上手に書けていると思うところを「きみはかんさつ名人」カードに書いて交換する。	育てたい野菜の数を調べ、簡単な1次元表にまとめた後、○を用いて絵グラフに表したりする。	植物や生き物の世話をし、観察した植物や生き物の特徴や成長の様子、世話をしたことを絵カードや新聞に表す。	生活科で育てている野菜を観察して絵を描く。	When the speaker says Vegetables basket!, everyone changes their places. その野菜を育てている子が席を立って移動する。席を失った子は育てている野菜について紹介する。	動物物の世話について発表し、大切にしている気持ちとこれからの計画を話し合う。				
		見方・考え方	2上p72	T	TAS		TAS	TAS	TAS			
4	人をうれしい気持ちにさせる言葉の働きに気づく。(B-7) 経験したことから書くことを決め、書くこととする題材に必要な事柄を考える。(B-9)	単元(作文) Narrative	6 うれしいことばを書こう							6 友だちと助け合っ		1
		言語活動	うれしい言葉の一つを選び、それを言われたときのことや、そのときの気持ちを文章に書く。							友だちっていいなと思った経験を話し合う。		
		見方・考え方	2上p44						TAS			
5	絵に描かれた島の様子を想像し、句読点の使い方に気をつけて、文を書く。(B-8,20)	単元(言語)	6 みじかい文を作ろう									0
		言語活動	絵の中の漢字を使い、句点に気をつけて、島の様子を表す文を書く。									
		見方・考え方	2上p142									
6	必要な事柄を集めたり、確かめたりすることができる。(B-9)	単元(作文) Informative	6 メモをしてじょうほうをあつめよう	6 長さ								1
		言語活動	教室の中で知らせたいことを決め、メモに取る。メモを書くときに気をつけることをまとめる。	教室の中の知らせたいことについて、長さを表す必要がある場合に、測定して表現する。								
		見方・考え方	2上p12	TAS								
7	「はじめ・中・おわり」を意識して自分の思いを書く。(B-8,16) 書いたものを読み合い、感想を伝え合う。(B-40) 文の意味が明確になるように語句や文のつながりを考えて書く。(B-24)	単元(作文) Narrative	6 組み立てを考えて書こう					7 くっつきマスコット				1
		言語活動	書く事柄を整理し、構成を意識して書く。書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。					磁石を利用したおもちゃや飾りをつくり、作品を説明する文章を書く。				
		見方・考え方	2上p44 2下p28				AS					
8	夏にかかわる言葉を探し、経験と結び付けて、文章に表す。(B-7)	単元(作文) Narrative	7 きせつのことば2(夏)									0
		言語活動	夏を感じたときに見つけたものやそのときの気持ちなどを文章に書く。暑中見舞いはがきを書いて実際に投函する機会をもつこともできる。									
		見方・考え方	2上p44									
9	秋にかかわる言葉を探し経験と結び付けて文章に表す。(B-5,7)	単元(作文) Narrative	10 きせつのことば3(秋)								10 読書の秋を楽しもう 10 スポーツの秋を楽しもう	1
		言語活動	秋を感じたときの経験を文章に書く。秋らしい言葉を使って、詩や俳句を書く活動を取り入れてもよい。生活科との関連を図ることもできる。						読書やスポーツで秋を感じた経験を書く。			
		見方・考え方	2上p44						TAS			

10	絵を見て、想像したことから書くことを決め、「初め」「中」「終わり」のまとまりのある短い物語を書く。(B-8,16)	単元(作文) Narrative	11 お話のさくしゃになろう			11 ようすを思い浮かべて	10 粘土で表そう「こんな生き物がいたらいいなあ」						2
	物語を読み合い、感想を交流する。(B-40) 書いた物語を読み返して、誤字、脱字、句読点、助詞、かまじ(「」)の使い方を直す。(B-3,35)	言語活動	今までの物語の学習を振り返り、お話作りに必要なことを見付ける。 (設定・出来事・出来事の解決・人物の変容等) 挿絵を見ながら、設定を決める。 ・中心人物の名前と人物像、出来事を決める。 登場人物の行動や会話を考えて、お話を書く。 ・「初め」の書き出しを考え、中心人物の紹介を書く。 ・「中」の出来事、登場人物の行動や会話が分かるように、表現を考えて書く。 ・「終わり」出来事による登場人物の変容を考え、題名を決める。 書いたものを読み合い、助言し合う。			「出発」の曲を聴いて、汽車に乗っている気分で、車内の様子や窓から見える景色を想像しながら物語を考える。 グループで相談しながら、想像した物語の情景や演奏に合わせて物語をつくり、音楽劇として発表する。	謎の島にすむ虫、魚、恐竜、鳥などの生き物と物語を考えて、粘土の作品をつくる。 島や生き物、そこで起こる出来事について物語を書く。						
		見方・考え方	2上p 14 2			AS	AS						
11	説明の順番を考え、言葉のまとまりに気を付けながら文章を書く。(B-2,8,30)	単元(作文) Informative	11 おもちゃの作り方をせつめいしよう			11 うごくうごくわたしのおもちゃ	11~12 すけんたんじょう						2
	文章を読み返し、間違いなどを直す。(B-35)	言語活動	生活科や図工の作品の中から説明する題材を決める。 作例の説明の順番を参考にして、「への作り方」をカードに書く。 友達と意見を交流し、文章を読み返して消書きする。			おもちゃを作ったり遊んだりして、気付いたことや「次にこうしたい」という思いをカードに書く。	透明ファイルを切りひねったり重ねたりして、着色して「生き物」を製作する。 作品の作り方を説明する文章を書く。						
		見方・考え方	2下p 2 8			TAS	TAS						
12	冬にかかわる言葉を探し、自分の経験と結び付けて文章にまとめる。(B-7,9)	単元(作文) Narrative	12 きせつのことば(冬)			1 冬となかよし							2
		言語活動	冬を感じたときの経験を文章に書く。			1年生と雪遊び(冬リンピック)をして感じたことを書く。					1 楽しい雪遊び ミニスキー、そり、雪合戦、雪像作りなどで1年生と交流する「冬リンピック」を楽しみ、経験を文章にする。		
		見方・考え方	2上p 4 4			TAS	TAS						
13	◎経験したことから、書く題材を決め、教科書の例を参考に、短い詩を書く。(B-8,21)	単元(作文) Narrative	1 しをつくらう			1 あしたヘジャンプ		1 楽しい雪遊び				1 わたしの誕生日	3
		言語活動	生活の中で心が動いた経験をふり返り、詩を創作する。			印象に残ったできごとやおうちの人の成長の様子を詩に表し、その説明の「ぼくのわたしのものがたり」(成長記録)をまとめる。		ミニスキー、そり、雪合戦、雪像作りなどで1年生と交流する「冬リンピック」を楽しみ、経験を詩に表す。			自分が生まれた時の、両親の願いについて発表しよう。		
		見方・考え方	2上p 12 / p 4 4			TAS	TAS				TAS		
14	文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりする。(B-1,2,24,35,40)	単元(作文) Narrative	3 すてきなところを伝えよう			1 あしたヘジャンプ							2
	相手に伝えることを決め、自分の思いが伝わるように、書くことを決める。(B-8,9)	言語活動	1年を振り返って、伝えることを決める。 ・友達との関わりや「すてきな」と思ったことをカードに書き出し、手紙に書くことを決める。 手紙を書く。 ・手紙例を読み、参考にしたい書き方を採る。 ・下書きを書く。 書いた手紙を読み返し、伝えたいことが伝わるように直したり、間違いを正したりして消書きする。 お世話になった先生や、交流した他学年、他校の友達への手紙を書く学習とすることもできる。			これまでの学校生活の中で気付いた友達の成長やよさを手紙にして伝える。						1年間の思い出を振り返り、仲の良い友達と楽しく過ごすために、手紙を書く。	
		見方・考え方	2下p 6 6			TAS						TAS	

第3学年 「書くこと」の資質・能力の教科等横断的な学習機会

	資質・能力	教科等横断	教科等横断										合計		
			国語	算数	社会	理科	音楽	図工	体育	外国語	道徳	総合		特活	
1	友達に報告する文章を書くために必要な事柄を調べ、示された構成に沿って段落を整理して文章を書く。(B-12.17)	単元 Informative	6 ほうごくする文章を書くこと 資料や写真をもとめて、調べたことを整理したりまとめたりして、下書きをする。 下書きを友達と読み合い、推敲し、事柄ごとに段落を分けて報告文を書く。	2	4 わたしたちのまちはどんなまち	4	4	0	0	1	0	1	4	4	20
		言語活動	書いた報告文を学級などで読み合い、意見や感想を伝え合う。 実地調査の例を取り上げているので、社会科の探検や施設見学、理科の動植物の調査・観察報告に学習内容を当てはめよう。		学校のまわりの土地利用や交通の広がりについて白地図に整理し、報告文にして読み合う。		校庭や学校の周りで色、形、大きさなどに着目して生物を比べてわかったことをまとめて発表する。					5～見つけよう！通町商店街のひみつ	6 いちよう図書館の利用の仕方	4	
		見方・考え方	3止p 5		TAS	TAS						TAS	TAS		
2	用件を明確にし、目的や必要に応じて書き方を工夫して手紙を書く。(B-11.28)	単元 Narrative	7 手紙を書くこと 必要となる事柄を調べ、手紙の構成を明確にし、目的や必要に応じて書き方を工夫して手紙を書く。(B-11.28)		8 工場の仕事		7 花がさいたよ～種目を育てよう3～					7 暖かい家族	5～見つけよう！通町商店街のひみつ	7 夏休みの計画	5
		言語活動	書いた手紙を家族や友達に見学する機会をもち、手紙の書き方を学び、手紙の構成を明確にし、目的や必要に応じて書き方を工夫して手紙を書く。(B-29)		8月に見学を計画している菓子工場へ見学している手紙を書く。		4月から育てているかわさち等の花がさいた様子や成長の記録を手紙に書き換える(手紙で知らせる題材・内容にする)				家族のためにできることを思い浮かべながら、家族への手紙を書く。	調べたいお店にお願いの手紙を書いたり、見学でお世話になったお店にお礼の手紙を書いたりする。	安全で有意義な夏休みにするための生活上の注意点を自分でやろうと思うことを家族宛の手紙に書く。		
		見方・考え方	3下p 30		TAS	TAS						TAS	TAS	TAS	
3	「はじめ・中・おわり」の構成を整理し、「中」の例と絵を組み合わせたから位置に分けて書く。(B-16.28)	単元 Informative	11 説明のくふうについて考えよう 「おわり」の構成になるように、調べたことのように、調べたことのおもしろいところや、調べたことと自分の生活との関係について考えよう。		11 大車からくらしを守る		11 音を出して調べよう			10 ぼくの・わたしの生活			5～見つけよう！通町商店街のひみつ	11 健康で安全な生活	6
		言語活動	調べたことのおもしろいところや、調べたことと自分の生活との関係について考えよう。		消防署や消防団、警察署、自治会などの関係機関について調べ、わかったことを説明しよう。		楽器の音と振動について、大きさを伝わり方を調べて、仕組みについてわかったことを書いて説明する。		食事、運動、睡眠、排便、清潔、生活リズムなどについて調べたり実践したりしてわかったことを書いて説明する。		両店街を調べてわかったことをまとめて説明する。	体育と関連させて、冬に健康的に過ごすための取り組みについて書いて説明する。			
		見方・考え方	3止p 56	AS	AS	AS	AS					AS	AS		
4	経験したことや想像したことなどから物語の題材を決め、物語を書くうえで必要な事柄を調べ、(B-8.12)	単元 Narrative	12 風物や物語の組み立てを考えよう 時、場所、登場人物などの設定を決めて、物語の中心となる出来事から考えを広げたり、関係づけたりする。 (2) 自分好きな本を読み返したり、友達と意見を交換したりして、できるだけ考えを広げる。 『三年とうけ』で学習した四つの場面に合わせてメモに整理し、物語を組み立てよう。												0
		言語活動	調べたことのおもしろいところや、調べたことと自分の生活との関係について考えよう。												
		見方・考え方	3止p 148												
5	調べて分かったことについて、構成を考え、まとまりに分けて書く。(B-23.28)	単元 Informative	2 報告書を書くこと 調べたことについて、構成を考え、まとまりに分けて書く。(B-23.28)		2 口を使った式と図		2 秋田市の様子と人々のくらしのうつりかわり		2 磁石につけて調べよう				5～見つけよう！通町商店街のひみつ		4
		言語活動	調べたことのおもしろいところや、調べたことと自分の生活との関係について考えよう。		調べたことのおもしろいところや、調べたことと自分の生活との関係について考えよう。		秋田市の交通、土地利用、人口、公共施設、生活で使われる道具などの移り変わりを調べて報告書にまとめる。		磁石がものを引きつける性質について調べてわかったことを報告書にする。			1年間の総合的な学習の期間の活動報告会を開く。			
		見方・考え方	3止p 56	AS	AS	AS						AS			
6	物語の紹介文を書くために必要な事柄を調べて書く。(B-13.23)	単元 Informative	3 人物の気持ちや性格をたどって読もう 新藤隆平作品の中から、どれかを選んで読み、好きな登場人物を中心に物語の紹介文を書いて交流する。											0	
		言語活動	調べたことのおもしろいところや、調べたことと自分の生活との関係について考えよう。												
		見方・考え方	3下p 60												
7	知らせたいことを決め、明確に伝えるように理由や事例を挙げながら書いていく。(B-7.11)	単元 Narrative	3 わたしの三大ニュース 知らせたいことを決め、明確に伝えるように理由や事例を挙げながら書いていく。(B-7.11)												1
		言語活動	調べたことのおもしろいところや、調べたことと自分の生活との関係について考えよう。												
		見方・考え方	3下p 128										TAS		